

令和元年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【京都府立綾部高等学校】

1 実践テーマ	【Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ】
2 実施対象者	1年生220名（男子100名、女子120名） 運動部員約350名 スポーツ総合専攻3年生6名（男子6名） 一般生徒（ボランティアバンク登録者）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（体育・スポーツ概論） ② 行事名（1年生対象人権講演会、運動部員集会） ③ その他（放課後での活動） （2）地域における活動 ① イベント名（あやリンピック） ② その他（ ）
4 目標 （ねらい）	特別支援学校の生徒との交流やパラリンピアンとの講話を聞くことにより、障がいのある人への理解と共生社会を形成するための思いやりの心を育てる。 また、オリンピックの講話により、より高い競技力の向上を目指すために必要な精神力の育成を図る。
5 取組内容	（1）「運動部員対象オリンピックの講演会」 7月19日（金）にシドニーオリンピック女子ソフトボールのメダリストである京都市立嵯峨中学校の田本博子先生をお迎えし、「感謝する力で世界一！」と題して御講演をいただいた。 ・感謝する気持ちで強くなれる。世界一になるためには、「世界一の行動」「世界一の練習」「世界一のあいさつ」「世界一の考え方」が必要、どんなことにも感謝の気持ちを持つ。監督、スタッフ、観客等。たとえ、罵声を浴びてもこれで頑張れると思って感謝する。そして、マイナスな事は全て排除する。感謝の気持ち「ありがとう」はプラスになる。 （2）「1年生対象パラアスリートの講演会兼人権講演会」 10月23日（水）にパラカヌー競技からパラスポーツを始められ、現在はパラパワーリフティングをされている中嶋明子氏をお招きし、「“WE=ALL” ARE THE SPECIAL！！」と題して講演会を行った。

「誰もが無限大の可能性のある特別な人」だということを教えていただいた。

【生徒感想文より】

・オリパラ講演会を聞いて、障がいがあってもいつも強く生きようと自分らしく生活しておられる姿にすごく感動しました。私は普通に勉強して、友達と話してと当たり前のことだと思っていたけれど、「今普通に生活できている事に感謝しなければなあ」と思いました。もしこれから先何かハプニングが起きたとしても、中嶋さんのように前向きにポジティブに考えられる人になりたいと思いました。

また、海外の人達は障がいのある方と同じように接することが多いけれど、日本では障がいがあるからと決めつけて接している部分があることを知り残念だった。しかし、障がいがあるからと言ってすぐに助けるのではなく、本当に助けを求められた時だけ助けるのも一つの優しさだと思った。



田本先生の講演会の様子



中嶋さんの講演会の様子

(3)「支援学校の生徒達との交流」

水泳部では、9月に入ってから舞鶴支援学校の生徒と合同練習を4回に渡り行った。

また、恒例になっている中丹支援学校とのスポーツ交流では、昨年に引き続き、卓球バレーで交流を深めた。



水泳の合同練習の様子



卓球バレーでの交流の様子

(4)「あやリンピックのボランティア」

11月17日(日)に新綾部市民センターで恒例の、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず誰でも参加できるスポーツのお祭りであるあやリンピックが開催され。本校からもボランティアで12名が参加し、競技の運営に積極的に協力した。



(5)「オリパラだより」の発行

月1回のペースで発行し、クラス掲示を行った。

6 主な成果

本年度は、京都にゆかりのあるオリンピックとパラスポーツ選手に講演をいただき、それぞれが持っておられる考え方や体験されてきた話を聞かせていただき大変参考になった。

また、運動部員全員に話を聞かせられたことは大変有意義であった。

支援学校との交流では、専門的に水泳をしている生徒と一緒に泳ぐという体験ができたり、障がい者スポーツを体験することで、また違った競技の面白さを肌で感じる事ができた。

7 実践において工夫した点

(事業の特色)

本年度は、運動部員全員に話を聞かせるため、終業式の午後からに時間を設定して行った。

また、1年生には「人権教育講演会」と合わせた形で例年実施しているため、本年度は比較的近くの講師の先生にお世話になり、2回講演会を行った。

8 主な課題等	<p>例年の事であるが、講師の選定に苦慮する。相手の日程と学校の行事の関係で中々決まらないのが現状である。(本年度は比較的上手く調整ができた。)</p> <p>来年度以降のことを考えると、予算的なこともあるので講演会以外に何かできないかと思うが、中々良いアイデアが浮かばない。色々と模索していきたい。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>念願であった障がい者スポーツが2年連続で行うことができた。今後は他の種目もできるようになると良いと思う。</p> <p>1年を切った2020東京オリンピック・パラリンピックに対し多くのスポーツがメディアでも取り上げられ、目や耳に触れる機会が多くなってきた。「する・みる・ささえる」といった観点から多くの生徒が何らかの形でスポーツに興味を持ち参加できるようにしていきたい。</p>